

管 区 事 務 所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

# 日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

駐日 イスラエル大使  
ヤッフア・ベンアリ 様

## エルサレムの正義と平和の実現を祈ります

2018年5月14日に中東ガザ地区とイスラエルの国境沿いで、在イスラエル米国大使館のエルサレム移転に抗議し、帰還権を求めて集まっていた数万人のパレスチナ人に対し、イスラエル軍が実弾を発砲して、少なくとも55人以上の尊い命が奪われ、大勢の人が負傷し、亡くなられた方々の中には、幼い子どもたちも含まれていました。召された方々の魂の平安を心からお祈りするとともに、このような武力によるパレスチナ人に対する攻撃は、決してゆるされない虐殺行為であり、強い抗議の意を表明します。

アメリカのトランプ大統領は、同日、イスラエル建国70年に合わせて「建国以来イスラエルはエルサレムを首都としてきた」と主張し、国際社会の反対を押し切って大使館の移転を強行したことが今回の事件の大きな引き金になったことは言うまでもありません。アメリカが、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教3つの宗教共通の聖地エルサレムを一方向的に「イスラエルの首都」だと宣言したことになります。日本も含めた多くの国々は、イスラエルの単独的な主張を認めず、テル・アビブなどに大使館を置いています。

人口の半数以上を難民が占めるガザ地区では、非武装でデモを行うパレスチナに対して、イスラエル軍の狙撃兵などが銃撃をし、ガザ保健当局によると、5月15日までの2週間で、少なくとも107人が死者し、11,000人が重軽傷を負っていると発表しています。この中には女性や幼い子どもたち、取材中のジャーナリストも含まれています。非武装のパレスチナ人に対して銃撃を行うイスラエルと、大きな混乱を生じさせたアメリカに対し、世界諸国の市民から激しい抗議の声があがっています。イスラエルにもアメリカにも、神さまから与えられた大切な命や人権を守る責任と平和的な解決に向けての話し合いへと導く責任があることは言うまでもありません。一部のクリスチャンが、アメリカの決定を支持していることも、神の愛と平和に基づくべきキリスト教にとって、非常に深刻な問題です。

1948年のイスラエルの建国以来、住居を奪われ、苦しみ続けているパレスチナの人々の苦難や悲しみに寄り添い、3つの信仰と2つの民族に愛されてきたエルサレムという土地に関する問題は、平和的な話し合いによって解決されるべきだと信じます。イザヤ書の「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」平和を願う者として、エルサレムを聖地として大切にす気持ちを持つ人々の願いが、互いに尊重され、歩み寄る日が一刻も早くおとずれることを祈ります。

2018年6月1日

日本聖公会 正義と平和委員会  
委員長 主教 上原榮正

管 区 事 務 所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

# 日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

駐日 アメリカ大使  
ウィリアム・ハガテ 様

## エルサレムの正義と平和の実現を祈ります

2018年5月14日に中東ガザ地区とイスラエルの国境沿いで、在イスラエル米国大使館のエルサレム移転に抗議し、帰還権を求めて集まっていた数万人のパレスチナ人に対し、イスラエル軍が実弾を発砲して、少なくとも55人以上の尊い命が奪われ、大勢の人が負傷し、亡くなられた方々の中には、幼い子どもたちも含まれていました。召された方々の魂の平安を心からお祈りするとともに、このような武力によるパレスチナ人に対する攻撃は、決してゆるされない虐殺行為であり、強い抗議の意を表明します。

アメリカのトランプ大統領は、同日、イスラエル建国70年に合わせて「建国以来イスラエルはエルサレムを首都としてきた」と主張し、国際社会の反対を押し切って大使館の移転を強行したことが今回の事件の大きな引き金になったことは言うまでもありません。アメリカが、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教3つの宗教共通の聖地エルサレムを一方向的に「イスラエルの首都」だと宣言したことになります。日本も含めた多くの国々は、イスラエルの単独的な主張を認めず、テル・アビブなどに大使館を置いています。

人口の半数以上を難民が占めるガザ地区では、非武装でデモを行うパレスチナに対して、イスラエル軍の狙撃兵などが銃撃をし、ガザ保健当局によると、5月15日までの2週間で、少なくとも107人が死者し、11,000人が重軽傷を負っていると発表しています。この中には女性や幼い子どもたち、取材中のジャーナリストも含まれています。非武装のパレスチナ人に対して銃撃を行うイスラエルと、大きな混乱を生じさせたアメリカに対し、世界諸国の市民から激しい抗議の声があがっています。イスラエルにもアメリカにも、神さまから与えられた大切な命や人権を守る責任と平和的な解決に向けての話し合いへと導く責任があることは言うまでもありません。一部のクリスチャンが、アメリカの決定を支持していることも、神の愛と平和に基づくべきキリスト教にとって、非常に深刻な問題です。

1948年のイスラエルの建国以来、住居を奪われ、苦しみ続けているパレスチナの人々の苦難や悲しみに寄り添い、3つの信仰と2つの民族に愛されてきたエルサレムという土地に関する問題は、平和的な話し合いによって解決されるべきだと信じます。イザヤ書の「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」平和を願う者として、エルサレムを聖地として大切にする気持ちを持つ人々の願いが、互いに尊重され、歩み寄る日が一刻も早くおとずれることを祈ります。

2018年6月1日

日本聖公会 正義と平和委員会  
委員長 主教 上原榮正